

日新真事誌第二周年第二百七十一號鈔錄

三月一日横濱新聞「ジアパニガゼット」ニ曰ク開
拓使ニ對シ四十ヶ條ノ疑問「ジヤパンガゼット」
ニ投シ其編輯者ニ記載ヲ乞フ
二月十三日日新真事誌ニ載スル所ノ文ハ「ジヤ
パンガゼット」ニ記セシ者ヲ辨駁スル者ニシテ
其說ク所口明漸ナリト雖モ亦答辨ナクニハア
ル可ラス然ラスニハ亦他ノ開拓使ノ事實ヲ知
ラサル人ヲシテ誤ラシメン
辨駁者ノ言ハ以爲ラク四十ヶ條ノ疑問ハ無稽

ノ言ニシテ開拓使ノ行事ニ付其過ヲ探クリ
開拓使ノ行事ヲ誣ヒテ過ヲニ陷ラシムル者ト
ナスニ似タリ其心已ニ如此シ故ニ四十ヶ條ニ
答問スル以所ヲ知ラス答辦者ハ此難問ヲ取ル
ニ足ラストシ其中ノ或ル者ヲ執リ喋々辨難シ
彼此牽強シ却テ蝦夷ノ真事ヲ誤ラシム今四十
條ノ難問ニ答フル所ノ人ハ疑ヒ無キ開拓使ノ
官人ナリ其言ニ曰
第一「ゴラブル」ノルゼネラル黒田子ハ以為ラゲ
開拓ノ事業ハ三十年間ヲ期シテ其結果ヲ望メ

リ第二答ニ無シ第三人口ハ増殖セリ然レトモ
未タ其幾百ナリ以テ敷ラレニ足ラス第四六十
ノ民兵ヲ募リ北海道ノ防禦ヲ依托セリ此募集
スル者果シテ兵ナレハ必ラス答言者ノ意想ニ
出ツルノミ○答辦者ノ言ヲ如キ民兵ハ蝦夷ニ
於テ見サルナリ第五商業繁盛セリト其情實ヲ
知ラセン為メ行ヒ易スキ事ヲ集メテ説明スル
モ未タ一物モ出產セサルナリ第六集漁ノ件ニ
就キ答エナシ第七農耕ノ出產ニ就キ幾數千石
ヲ以テ計レトモ皆偽ナリ第八察幌ノ地ヲ撰ラ

ニテ首府トナセシハ其地位タル全道ノ中央ニ
在ツテ其小樽港ニ近キヲ以テナリト〇然ルニ其
地小樽ヲ去ル二十五里ニシテ遠キノミナラス
其地位固ヨリ蝦夷ノ中央ニ在ラスタトヒ之ヲ
シテ其中央ニ位セシムルモ豈首府ニ適スルノ
地ナルヤ否ヤ〇北海道ハ固ヨリ日本ノ一州縣
ナリ故ニ其首府ハ宜シク日本帝國政府ノアル
地ニ最モ接近シ最モ便宜ノ港アル地ヲ撰ブ可
シ〇今一喻ヲ設ケテ之ヲ説カニ英國政府ヲシ
テ⁷フリスタラリヤ州ヲ治セ⁷為メ其州ノ中央

ヲ撰ヒ政令ヲ出スノ所トナシ其他南亞弗利加
ノ廣野及ヒニウゼトランドノ山壑間ニ費用ヲ
散シテ政府ノ場所ヲ設ケシメハ則チ之ヲ謀ル
得タル者ト為スヤ曰否如此ノ思計ハ未タ事ニ
馴練セサル人ノ腦力ニアラスニハ出テサルナ
リ〇夫レ北海道開拓ノ企タル千八百六十九年
東久世氏ニ由ツテ起リ千八百七十一年ニ及ニ
テ黒田氏此レニ次キシナリ其事タル固ヨリ至
大至重ニシテ亦容易ナラス政府之カ為メ吏員
ヲ置キ細カニ其事程ヲ分ツテ之ニ課シタリ〇

費散ノ事アルハ固ヨリ吏員ノ欲スル者ニシテ
此費散ニ由ツテ其私ヲ管セントス故ニ今中心
政府ヲ建設スルノ議ヲシテ決セサラシメハ開
拓使ニ於テ大ナル費用ヲ省フキシナリ其大ナ
ル費用トハ乃チ北海道ヨリ森迄道ヲ切り無益
ニシテ費用大ナル堤防ヲ築キ及ヒ火山坑ノ北
岸ニ、シンモロランノ殖拓地ヲ起シ夫レヨリ察
幌ニ道ヲ通シ其他特ニ察幌ニ就イテ言エハ則
チ政廳ヲ設ケ内外二國官人ノ家居ヲ築キ人民
ヲシテ此都ニ移住セシムルノ支給諸官人ハ此

都ニ往來スルノ費用及ヒ河海陸ニ依ツテ百貨
ヲ此都ニ運輸スルノ費用モ亦幾數千萬ヲ以テ
數フ可シ實ニ察幌ノ地タル開拓使ノ妨害物ナ
リ○帝國ノ庫帑ヲ空耗シテ幾千萬ナラシムル
モ察幌ハ枯死セシノミ然レ今ニシテ察幌ナカ
リセハ多クノ官吏ハ乞丐ノ徒タルヲ免レス○
獨リ此過チノミナラス其他ノ過失ニ至テモ外
國人ニ於テハ皆其罪ヲセネラルケエプロン氏
ニ歸ス乍去開拓ノ企テタル固ヨリケエプロン
子ノ此國ニ來ラサル既ニ二年前ニ在ツテ起リ

シナリ。〇如何ニゼネラルケエプロンハ百事ニ就キ其責ヲ受ルノミナラス開拓使ノ絶倒ニ堪エサル企畫ニ就キ其過ヲ明ラカニ辨セスニハ有ル可テサルナリ。ケエプロンノ百事ニ就キ言ヲ發シ事ヲ議スルハ疑ヒモナキ。丁ニシテ其害事ノ由ツテ生スルヲ見レハケエプロンノ力ヲ尽シテ事理ヲ辨折セサルハ亦明ナリ。第九條此難問ニ答フルニ只其一ヲ以ラス故ニ其答言未ダ全カラズ。曰開拓使ニ於テ蝦夷ノ商人ニ便セシメ蒸氣船ヲ往來セシメリト然ルニ保任社

ハ便益ヲ他ノ商人ニ為サズ只己ノ利ヲ圖ルノミ其運輸スル價ノ如キ太平洋飛脚船社中ニ此スルニ遙カニ貴ク請合料モ亦之ヨリ貴クシテ保任ノ法之レト同ジカラズ。第十條答辯者曰蝦夷ノ地理ニ就キ十分ナル測量ヲ為スト此レ果シテ何ノ時ニアルヤ何故ニ此迄一般ニ概測ヲ初メザリシヤ。此測量タル固ヨリ難事ニシテ廣ク算學ヲ窮ルニ非レバ能ハズ。〇今夫レ蝦夷ノ地ハ不毛ノ曠野ノミ故ニ如此キ容易ナラザル測量ハ後來ニ至リ内外ノ人此ニ集リ業事ヲ當

ムヲ得其繁盛ヲ致スニ非ズニハ真ニ不用ノ事
ニシテ且ツ器械モ其要用ナル者ハ未タ全ク此
國ニ渡ラズ故ニ十分ノ事ヲ成スハ難シ○既ニ
基線ヲ一方ニ立テ測量ノ進行ヲ初メリ此事タ
ル固ヨリ黒田子ノ責メニ非レド蝦夷ノ南端ナ
ル大島州測量ノ件ナリ○此測量ヲ命ゼシハ其
地ノゴイブルノルノ命ゼシ者ニシテ此命ヲ受
タル者ハ一小時ノ官人ト之ヲ助クル副官二三
ニ過ギズ既此州ノ半ヨリ多測量ヲ成セリ故ニ
今其圖ヲ製セントス○此事タル固ヨリ器械モ

備ハラザレバ其概畧ヲ量測シテ可ナリ如此ナ
レハ費用モ小ニシテ測量スル人モ亦為ス所ノ
業ニ付其信ヲ失ハザル可シ第十一條未タ十分
ナル答辨アラス第十二臘虎ノ渙事ニ就キ更テ
ニ答辨ナシ第十三蝦夷ニ於テ道路ノ如キ寒天
雨雪ニ會スルモ更テニ行旅ノ不便ヲナサズト
云フ事ニ関シ答辨者ノ更テニ一言モ此ニ及ブ
ナシ蓋シ答辨者ハ此難問ヲ避ケシナリ第十四
嶺山ノ業開ラケサルニ就テノ疑問モ亦答辨ナ
シ第十五蝦夷ト支那ノ間ニ直チニ互易ノ便ヲ

開カントテ既ニ上海ニ於テ互易品ヲ取扱フノ
家屋ヲ設ケリト然ルニ此家屋ハ固ヨリ保任會
社ニ屬スル者ニシテ開拓使ニ屬スル蒸氣船ニ
至テハ一モ未タ支那ト蝦夷ノ一大切要ナル海
路ニ航スル者ヲ見ズ第十六木材ヲ伐採スル件
ニ付答議者ハ察幌ニ在ル一ノ小ナル木挽器械
ト新室蘭ニ設ケントスル器械ヲ舉ゲリ然ルニ
察幌ノ器械ハ現ニ在レド新室蘭ニハ未ダ見ズ
第十七東京ニ於テハ蝦夷ノ耕藝ニ付其利益ヲ
未タ知ラザルガ第十八何故ニ黒田子ハ一歳ノ

間數月東京ニ住セザルカ第十九蝦夷ニ於テ外
國人ノ縱行ヲ許サレシニ何故ニ日新真事誌新
聞ニ之ヲ記セザルヤ第二十鮭漁ニ就キ之ヲ守
護スルノ法ニ至テ答辦者以爲ラク意ヲ注スル
ニ足ラズト故ニ此レニ答辦ナシ第二十一及ニ
十一各地ニ政廳ヲ建テ及ビ新聞紙ヲ設クル件
ニ付更ラニ答辦ナシ第二十三終カニ設ケシ學
校ヲ舉ゲシガ其數ヲ計エテ若干ヲ得ルヤ第二
十四二十五二十六道路橋梁及ビ金銀ノ爲替座
セービングバンク等ノ爲メニ開拓使ニテ貸附

所ヲ設ケシガ答議者曰ク年ニ八割ノ利ト然ル
ニ此レハ三月毎ニ利ニ利ヲ加ル者ニシテ十五
ノ割ナリ何故ニ如此キ虚ヲ記シテ其實ヲ舉ゲ
ザルヤ第二十七郵便役所ノ事ニ就テハ此四十
條ノ難問ヲ世ニ公布セシ後ニ於テ立ナシナリ
第二十八及ビ二十九外國商館ノ歎訴及ヒ租税
ヲ収ムル所以ニ就キ更ラニ關係セズ第三十條
海産ノ租税ニ就キ此モ亦偽ナリ果シテ答辯者
ノ言ノ如クナレハ海岸ヲ借區スル者及ビ漁者
ノ如キ豈少々ノ歎訴ナシトセシ海産ヨリ収入

セシ租税ノ高カハ五十萬兩餘ト然ルニ真正ノ
方術ニ由ツテ此ヲ収入セバソノ高二倍スルノ
ミナラスシテ一人モ此税ニ苦ムモノナカル可
シ第三十一及ビ三十二答言ナシ第三十三二十
萬石ノ米ハ開拓使ノ倉庫中ニ在リト言ハ亦虚
ナリ今冬全島ニ在ル所ノ米ヲ計ルニ恐ラクハ
五十石ニ至ラザル可シ第三十五三十六三十七
答エナシ此ヨリ以下ノ答言ハ總カニ知ラレシ
土地ノ開墾収入等ノ高ヲ舉クルノミ○前條舉
グル所ハ皆取ルニ足ラズシテ多クハ虚妄ノ言

ナリ。此地ニ在ッテ此ヲ見ル者ハ必ク不言ハ
シ如此キ言ハ北海道ニ於テ復々見ルノ念ナカ
ラシム。○此ヲ見ル者ハ皆笑テ其抱腹ニ堪エザ
ル可シ

箱館ニ在ッテ千八百七十四年三月二十五日

島根

本年一月十四日刊行ガセツト新報ニ開拓事務
上ニ就テ四十條ノ疑問ヲ掲載シ松前某ト題セ
ル投書アリ予謂ラク事其實ヲ失フ者多シ是其
實境ヲ知ラス妄リニ流言訛傳ヲ信シ此無稽ノ
談ヲ為ス者ニシテ所謂知ラスシテ之ヲ言フ無
智ナリ固ヨリ之ヲ辨スルニ足ラスト然ルモ亦
其意ヲ國事ニ用フル所以ノ者ハ頗ル嘉納セリ
翌月十三日日新真事誌ニ此疑問ヲ辨解セル者
アリ^三月^{二五}日某又之ヲ誅議シテ曰是皆蝦夷ノ

實況ニ反セリ記者憑據ナキ調書ヲ以テ本使ヲ保護スル者ト予是ニ於テ某ノ妄誕益甚シキヲ見又謂ラク某真ニ意ヲ國事ニ用ルニ非ス蓋シ猜忌スル所アリ故ニ妄リニ無根ノ事ヲ流布シ人心ノ北地ニ歸嚮スルヲ沮碍センヲ欲スルニ在リ若シ其實心國事ヲ憂フルノ人ニシテ本使ノ事務果シテ其當ヲ得サル者アラハ宜ク之ヲ本使ニ忠告スヘシ何ソ獨リ外國人ノ手ヲ借り之ヲ誹謗スルノ理アラニヤ松前某ト云ハハ固ヨリ本邦ノ人ナリ然ルニ之ヲ内國新聞ニ載セ

スシテガセツトニ托スルモノ自ラ其妄誕ナルヲ知り他日詐欺ノ發露センヲ畏レテ姑ラク其跡ヲ晦マヌ所以ナリ此等ノ妄人固ヨリ論スルニ足ラスト雖モ自己ノ猜忌ヲ以テ國事ヲ誹議シ人心ヲ蠱惑スルニ至ツテハ政道ノ罪人ニシテ其弊害モ亦淺少ト為サス故ニ今其誤謬ノ件ヲ辨駁シテ左ニ記載セリ其他予カ東京ニ留リ及民政施設上ノ事ニ至ツテハ自ラ廟議ノ在ルアリ今爰ニ辨說セス其果シテ實心國事ヲ憂フルノ人タラハ宜シク其私意ヲ去リ公然之ヲ忠

告スヘシ余必ス其盡言ヲ受ケントス若シ今後
猶匿名ノ書ヲ以テ喋々誹議シ公然忠告スル能
ワサル時ハ其言ノ誣妄ナル是ニ於テカ知ルヘ
シ予又之ト辨論スルニ違アラサルナリ

○防禦ノコト昨年十二月廿五日政府ノ允裁ヲ經
青森酒田宮城諸縣士族千五百戸九ノ六千人^札札
幌小樽室蘭等ニ移住セシムルニ決セリ強壯ニシテ
兵役ニ堪ル者一戸一丁トス即チ千五百人ヲ得ベシ
金穀ノ調度家屋ノ建構等ハ今方ニ着手セリ

又枳前及札幌有珠興市石狩浦川等へ従前土
着スル所ノ舊藩士ニ就テ兵伍ヲ編制シ非常ノ警
備ニ供セシカ為ニ本年一月廿八日大判官松本十郎ヲ
シテ之ヲ調理セシムル旨ヲ命セリ然ル寸ハ一旦有事ノ日ニ
當ツテハ全道ノ兵員必ス前數ニ倍スヘシ

○商賣ノコト全道戸口ノ繁息物産ノ増加ヲ
以テ其効ヲ見ルヘシ

○漁業ノコト明治三年ヨリ毎歲収獲ノ額漁
船ノ數増加スルヲ以テ其効ヲ見ルヘシ

○新墾秋収ノ數真事誌ニ載スル所ノモ、皆

實際ノ調査ニ符合セリ何ヲ以テ其實ナラサルヲ知ルヤ頃者明治六年八月札幌郡ノ段別ヲ調査シタル報文ヲ得タリ左ノ如シ

段別四百九十二町六段七畝二十六歩
○石狩國ハ全道ノ中央ニ在リ四方ヲ控制スルニ足り而テ札幌ハ其最モ要地タルヲ以テ本廳ヲ茲ニ設ケタリ今某ノ言ノ如ク唯東京ニ近キラ求ルトキハ全道ノ極南亀田福島二郡ノ間ニ置クヘキカ而シテ千島北見ヨリ之ヲ見ルトキハ其便否如何ト為ス

ヤ且ツケフロン氏此議ニ與カラサル云々其妄誕益甚シ同氏ノ建言既ニ公布セル本使日誌第三號ニ詳也

○測量ノ事米人ガツソニニ命シテ施行スル所ナリ宜シク同人ニ就テ其詳ヲ聞クベシ
○物産ノミ米人ライマン氏土質鑛山測量報文アリ既ニ刊行セリ宜シク同人ニ就テ其詳ヲ聞クヘシ石狩以北ハ本年之ヲ測量シ調査了リタル後速ニ之ヲ公布スヘシ

○臘虎密獵ノコト屢之ヲ偵知シ去秋始テ確

證ヲ得タリ故ニ大ニ獵人ヲ募リ矯龍丸ヲ
本船トシ若干ノ漁船ヲ發遣シテ此業ヲ開
カントス今既ニ準備セリ解纜迄ニアリ

○道路ノコ石將以南調査既ニ了リ新道測量
事宜刊行セリ漸次之ヲ施行セントス

○煤田開採ノコ調査了ラサルヲ以テ未着手
セズ蓋シ全道各處ノ煤田十分ノ調査ヲ經
タル後其最良ナル者ヨリ始ントス輕忽ニ
手ヲ下シ資本ヲ耗失スル如キハ本使ノ取
ラサル所ナリ

○保任社ハ本使ヨリ其資本ヲ發下シテ之ヲ
創立シ用達榎本六兵衛以下ヲシテ其事ヲ
管理セシム開通號ハ即チ同社ノ枝店ニシ
テ本使ヨリ政府ノ許可ヲ得テ之ヲ設立ス
ル者ナリ

○室蘭港ニ送ル所ノ木挽器械ハ函館在留英
人「アレツキストン」ヨリ購入セル蒸氣機關
ナリ去月十九日本使官員新納常隆諸工人
ヲ率ヒテ北下セリ五月下旬ニ開業アルヘ
シ

○官園ヲ東京ニ設ケタル所以ハ本使日誌第四號ニ刊行セル「ケプロ」氏建言書ニ詳ナリ記者真事誌ニ載スル者モ亦此意ナリ

○本使貸付スル所ノ金其利子年八朱トス福山江刺釧路根室等ノ人民ニ貸典シテ産業ノ資本トナス者はナリ又貸付會所ニ發下スル者モ年八朱トス但會所ヨリ之ヲ出貸スルヤ手數料ヲ加ヘ抵當品ニ依リ小異アリト雖モ一割ヲ以テ概則トス

○石狩以南郵便ノ設ハ明治五年九月ニアリ日高十勝釧路根室ノ四國モ亦既ニ驛通憲ト商議決定セリ施行迄ニアリ

○外事局外國人民ニ對シタル裁判等未タ曾テ其公平ヲ得ザル者アラズ

○収税ハ自ラ一定ノ法アリ官員奸ヲ容ル所ナシ若シ之アル必ス刑典ニ處スベシ

○北海警備ノコ去年十二月二十五日政府ノ允裁ヲ經海軍省其旨ヲ奉シ今年將ニ軍艦ヲ發シテ非常ニ備ントス其擇捉ニ差遣スル者ハ解纜迄ニアリ

○東京ヨリ青森ノ鐵道建築ノコト未タ其企
アルヲ聞カス

○各處ニ分貯スル米穀左ノ如シ

米一萬零八百四十五石七斗三升五合

右函館貯藏ノ分

米六千八百八十一石五斗八升二合

白米千五百石

右札幌貯藏ノ分

米七百八十一石五斗

右留萌貯藏ノ分

米六千零三十石八斗六升六合

右小樽石狩岩内古平積丹五郡貯藏ノ

分

合計二萬六千零三十九石六斗八升三合

○蓬萊社ヨリ北海漁民ニ資銀ヲ給スルノコ

ト未タ其企アルヲ聞ス

○北方寒地ノ人本使ニ奉職スル者少シトセ

ス

○札幌函館兩所ニ病院ヲ置キ每郡醫員ヲ派

出スル左ノ如シ

日本地圖

陽抄

岩内	古平	小樽	勇拂	厚田	余市
石狩	積丹	古宇	濱益	浦川	様似
幌泉	静内	沙流	廣尾	苔前	天塩
宗也	増毛	壽都	森村	久遠	長万部村
山越	歌棄	島牧	瀬棚	根室	紋別
網走	國後	厚岸	振別	別海村	濱中村
釧路	藥取				

以上三十八所

○人民訴訟ノ事主任ノ官員ヲ設ク皆國憲ニ依テ處分ス

乙卯二十三年

和

當使七等出仕小牧昌業席用有之一昨五日清國上海、出資及候尤毛等外一等出仕九田仲太郎隨行候條此段席届申上候也

明治七年五月七、開拓次官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

何如と仰る可く格上より候旨

少門下